

第 3 回真岡市公共料金審議会会議録

日 時：令和 7 年 12 月 22 日（月）

午後 2 時 00 分

場 所：真岡市役所 404・405 会議室

質問者：公共料金審議会委員（以下委員）

回答者：真岡市上下水道課職員（以下職員）

（1）真岡市の水道・下水道の適正な料金等について

資料（１）「水道事業料金表について」、

資料（２）「下水道事業使用料金表について」、

資料（３）「水道料金・下水道使用料金比較表について」、

資料（４）「下水道使用料体系に関することについて」

（職員による説明）

○委員：様々なパターンでご説明いただいたが、我々が選択していく上で、実際にこれから運営をされていく水道局の方は、現実的にどのパターン、どの改定率にするのか、方向性としてどういう検討されているのか、についてアドバイスをいただきたい。

○職員：平均改定率・パターンはどれを取っても対応ができるようにということで資料は作成しております。ただし、純利益の確保は老朽化した施設の更新の原資となることから、今後 10 年間で黒字が維持できることを目標に算定をさせていただきました。なお、水道事業につきましては、料金回収率が補助事業の要件に強く影響いたしますので、できるだけ長く 100%以上を確保できることが望ましいと考えています。また、事業の継続を最優先にすれば方向性は明確なのですが、同時に市民の皆様への負担軽減も重要な視点となっておりますので、両者を踏まえた上で、皆様のご意見いただければと考えております。

水道料金の平均改定率について

○委員：改定率については 3 パターンを担当課で用意してくれているが、1 だとまたすぐに改定をしなくてはならないのかなと思う。水道だと 26.8%の 2 のパターンでやれば、料金回収率は令和 10 年に 100%で、それ以降は 100%をきってしまうということであるが、この場合だとまた 100%をきるスタートの年か前年あ

たりにまた改定をしなくてはならないということなのかを確認したい。

○職員：料金回収率 100%を目指すということは当然ですが、それとあわせて事務の効率化や設備のダウンサイジングなどの適切な人口減少に合わせた設備の更新等も併せて費用削減を行っていきますので、そのあたりはなるべく長く維持できるように努力もしてまいります。料金回収率 100%というのは、国の補助要件になっておりますので、そのあたりを見据えながらの対応ということになって、まいります。

○各委員：なかなか難しい話だが、結論を出していかねばならないという部分は重々理解できる。個人的な話になるが、要はどこまでの財政を目指すのかということと、市民生活への影響を両天秤にかけてということになる。個人的には、パターンの一番改定率の高いところは 10 年先まで財政的に確保するという事なんだろうけども、これについては、今この時点の審議会で 10 年先までのものを枠にはめてしまう、方向性を出してしまうというのは、この変化の大きい時代の中ではそこはなかなか難しいのかなと思う。来年何が起こるかわからない、どういった経済状況になるかわからない非常に変化の激しい時代を迎えていると思っているので、一番改定率の高いところは、消去法から言うところちょっと考えにくいのかなと。どちらがいいのかということになると、皆さんのご意見を聞きながら判断したいなということでは考えているが、市民生活をとってみればこれは安い方がいいに決まっている、ということは目に見えていることだと思う。しかしながら財政のことを考えると、やはりパターンの真ん中の平均改定率がいいのではないかと個人的には考えている。ただし、料金的に水道だけ、下水道だけということであれば、市民もそれなりに理解はしてくれると思うが、これが水道と下水道の両方が一緒にあがってくることになると、かなりひと月高額な金額になるので、理想的には私はパターン 2 だと思う。ただソフトランディングというところも、段階的に上げていくということも考えてもいいのかなという気はする。

・最初から事務局でも説明があったが、純利益を大体 10 年確保しなくてはいけない、それと負担とのバランス。それとやはり 3 人家族の場合や事業者の場合を考えると、おそらく真ん中の案しかないのではないかなと思う。

・この 3 つのパターンがある中で市民として値上げという部分を考えれば、真ん中の 2 というパターンが無難かなという気はする。ただ、先ほど他の委員からあったように、水道料金と下水道料金を同時に同じパターンに上げていくという考え方があると思う。もしかしたらソフトランディングであれば、1 のパターンと 2 のパターンを組み合わせるとかもあるので、もう少しその辺を考えながら結論を出してもいいかなという気はする。

・2 回ほど会議に出て今日で 3 回目になるが、色々と考えて料金としてはやはり真ん中の辺りがいいのかなと思うが、生活している私たちとしてはやはり安い方がいいに決まっている。でも、色々考えるとやはり真ん中あたりの方がいいのかなという意見。

- ・結局1番下ですこし上げると、何年も経たないうちに赤字になったり大変な状態になるということもあると思う。ただ一番上まで上げてしまうとどうかとも思う。やはり生活水準はみなさんすごく違うと思うので、一般市民としたら徐々に上がるほうがいいが、やはり中ぐらの率で上げていって、また不具合とかが出てきたときには検討という形でできればと思う。
- ・改定率についてはやはり急激な変化というのはやはり生活に影響を与えると思うので真ん中なのかなと。パターンについては平均かボリュームゾーンが多いところから回収するというのは必要なのかなと考える。話の中にあったように、大きな変化が一気に来るというよりはやはり段階的に率を上げていくとかそういう方法もあったのかなと印象を受けたところ。
- ・やはり中間ということで、真ん中の改定率でやむを得ないのかなと思う。いいとは言わないが、先ほどから出ている生活に困窮している方であるとか、大変な物価上昇の時期でもあるので、上げないには越したことはないが、経営を考えれば上げざるを得ないので真ん中でやむを得ないのかなと思う。
- ・1番低いか、もしくは真ん中という辺りで考えている。パターンの的にも個人の負担とか事業を考えるとまだ迷っている形ではあるが、パターン1つにしても個人が負担する分が多くなってしまったり、事業者が負担する部分が多くなってしまったりというのを考えるとすこし迷っている。
- ・改定率に関しては、やはり2番かなという感じではある。遅かれ早かれ、財政状況が好転しないのであれば、今のうちに上げておくところは上げておくという感じでいいのでは。ただ10年先のことは誰も本当に分からないので、何年後かにまたこういう場があれば、そこで改定をしてもいいのかなという含みも持たせて2番がいいかなと思う。パターンについては1か2かなという感じではある。
- ・パターン3つのうち、真ん中ではないかなと思う。1番上はもちろん長期的に見ると回収率とかを確保できるのでそれはいいと思うが、全体的に物価も上がっている中で払う方のことを考えるとやはり大変なのではないかなということと、1番下のパターンでは、あっという間に回収率も100%をきってしまうとかそういうことになると、改めてすぐ考え直す機会を設けなくてはいけないのではないかということで、真ん中のパターンでいくのがいいかと思う。

(各委員、水道料金の平均改定率は26.8%で同意、異議なし)

水道料金の改定パターンについて

- 各委員：パターン2がいいのかなと。誰が負担するかということで、みんな等しく、同じような感じでなるべく平らに負担してもらったほうがいいかなということ考えている。

- ・事業者としての立場も入るが、賃金もかなり上がる傾向で最低賃金も上がっているし、ある程度収入はどこも上げていっていると思う。特に都内の同業者に話を聞くとすごい上がり具合だということで、やっぱりこれを見たらパターン2だと大体2000円ぐらいの差。今は何でも値段が上がっているのでもやむを得ないというか、上下水道が一番大事なインフラなので、そうしないと事業が継続しないのであれば当然工事費なんかも上がるため、やはり公平性とか負担とか利益を考えるとパターン2になるのではないかと。またどこかの時点でインフラ具合なんかを見ながら改定も必要になるのかなとは思う。
- ・このパターンについても2番が妥当だと思う。この折れ線グラフもほぼ平らに横並びになってくるということもあり、パターン3の部分で言うと事業者やかなり多く使う部分は安くはなっているので、一番高い一番安い、そういうところを比べると真ん中のパターン2がいいのではないかと。
- ・上下水道はどうしても使わなければいけないということもあり、少ないほうがいいがパターン2を選ぶというか、選ばざるを得ないかなと考える。
- ・パターンによって収入収益に変化があるわけではないということなので、それであれば平均といった形の方が理解はされやすいのかなと感じる。
- ・パターン1は使えば使うほど上がってしまうということで、節水の気持ちが少しでも出てくるのではないかと期待と、パターン2はやはり平準化されていることで、その点がいいかなと思うが、パターン1の場合は業者で水をたくさん使うところには負担がかかり過ぎてしまうのではないかとというのが気になる。

(過半数以上の意見から、各委員、水道料金改定パターン2で同意、異議なし)

下水道使用料の平均改定率について

○各委員：真ん中の28.1%が妥当なのかなという気がする。

- ・どちらかという真ん中でいいのかなとは思いますが、こういった形で今回審議会の委員になって勉強させていただいたが、この先5年後10年後を見据えた上でいくと近いうちにまた料金の改定というか、こういった審議会をまめに開いて様子を見たほうがいいのではないかとというのが正直なところ。1回ここで決まったからといってすぐに安心するのではなくて、1年ごとに見直しをするなどすれば、逆にもう少しなだらかな上げ幅にできるのではないかなと思う。今回に関して言えば真ん中でいくのが一番妥当かなというのが正直なところ。

○職員：貴重なご意見ありがとうございます。先ほどのご意見はごもっともだと思います。最後に答申をまとめる際に、改定率などの他に付帯事項というものもあわせてまとめるかと思われますので、先ほどお話のあった見直しや検討は定期的に行うのか、そういったところも十分答申の中に盛り込むことができます

ので、貴重なご意見を盛り込むことで次のバトンが続くことにもなりますので、そちらも併せて検討をしていければと思います。

○各委員：真ん中で行って見直しを適時行うのがいいと思う。今までデフレがずっと続いてきて料金がずっと変わらなかったのが、料金が上がるということに対して抵抗があると思うが、やはり工事費とか様々なものを含めて仕方がないのかなと感じる。

・先日、下水道処理場に見学に行ってきたが本当に古くて驚いた。そういうことを考えると、やはり一番高い率がいいのかなとは思いますが、現状を考えて主婦や消費者の立場として色々考えた末に、やはり真ん中のパターンになってしまうのではないかなと感じている。

・ほかの委員と同じく真ん中の 28.1% がよいと思う。今まで間が結構空いているので、確認をまめにしてある程度になったらこういったような会議を開催してその都度見直しという形を考えていただければと思う。

(各委員、下水道使用料の平均改定率は 28.1% で同意、異議なし)

下水道使用料の改定パターンについて

○各委員：やはり水道と同じでパターン 2 がよいと思う。これが一番負担してもらうには均等でよいのかなと感じる。

・市民への説明という部分、筋の通った方向性という部分から考えて、パターン 1 やパターン 3 にしてしまうと違和感が出てくるのかなと感じる。当然水道と同じようなパターンを使った方が水道との整合性がとれるのではないかな。

・上下水道入っているところは、大体同じようなパターンで皆さん考えていると思うので、やはりパターン 2 でいくのが一番スムーズにいくのではないかな。

・下水に関しては、埼玉で起きた陥没事故のようなこともあるので、もしかしたら一番高い 38.7% にすべきかもしれない。しかし、いきなり上げてしまうと市民の生活に影響が出て料金も上がるということで、やはりここはパターン 2 でよいのではないかな。

・水道事業と同様にパターン 2 でよいと考える。(他委員同意見)

(各委員、下水道使用料改定パターン 2 で同意、異議なし)

下水道使用料体系について (資料 4 について)

○各委員：担当課(下水道課)から説明があったとおりの案でよいと考える(他委員同

意見）。

（各委員、事務局案で同意、異議なし）

（改定時期についての説明を担当課へ求める）

○職員：改定時期を含めた今後の答申の流れについてご説明をいたします。答申案がまとまりましたら、審議会として市長へ答申書を提出いただきまして、市で最終的な判断を行います。そのあと、料金改正案を市議会に提出をしまして、承認されれば改定が決定いたします。その後、周知のために約6ヶ月間程度期間をしっかりと確保した上で新しい料金が適用されます。次の2月議会に間に合えば10月からの適用となります。

○委員：議会で承認されて、その後の市民への説明というのは時期的にどのように考えているのか。

○職員：議会が終了した後の流れとしましては、周知ということになりますので、対象の方々に対してその改定の内容について資料を作成して配布したり、ホームページを含めた報道媒体を通して情報の周知をしっかりとさせていただいて決めていきたいと考えております。

○委員：先ほど令和8年2月の議会で承認されて、半年の期間をおいて10月から適用ということで説明があったが、それは最短ベースということか。それが伸びるということもあり得るのか。ここに出席している委員は内容は把握できているが、市民全員に対して本当に周知徹底できるのかというところを踏まえて、不備があったときは後ろにずれ込むのか、10月で決定なのか。

○職員：そちらにつきましてはあくまで最短ベースということになります。

（各委員、事務局案で同意、異議なし）

（次回、答申書案を諮る旨説明）